

幻の前穂高岳北尾根

日程：2015年7月24日夜～26日

メンバー：藤野（L）、赤澤（SL）、和田

報告：和田



北穂高の下りから見た「前穂北尾根」

赤澤会員がシリウスに誘ってくださってもう何年になるだろう？ある会の女子部では根性と体力がないことで有名な私の、唯一の得意は「岩」である。「岩登り」と書けないのはロープワークが出来ない、システムが覚えられないからである。

それでも岩に触るのが大好き。てっぺんに大きな岩がある山が好き。そこでコーヒーを飲めたら幸せ。最近ほとんどそれ目的の山ばかりという情けない日々の中、ある日赤澤さんからメールが、、、。

「前穂北尾根へ藤野さんと行くのですが行かない？」 えーっ？私を誘ってくれます？こんなやつですよ？日程的には◎。ただ北尾根です。即答できるはずがなく、しばらく待っていただくことにした。冷静になろう。迷惑じゃないか？そりゃ迷惑だろう。でも誘ってくれ たってことはそれも承知？甘えてもいいのかな？自問自答を繰り返し、「一生懸命付いて行こう。どうしても無理なら私は一般ルートで行って前穂の山頂で合流してもいい」と参加したい旨の返信をしたのだった。

7月24日、午後6時半、西八王子駅北口で待ち合わせ。藤野さんの車に乗り込む。赤澤さんとは幕岩の岩トレ以来だから、一年半ぶり？藤野さんには軍刀利沢でお世話になって以来で3、4年ぶりだろうか。どうぞ宜しくお願いします！

今夜はとあるSAで仮眠するとか。SAなどは夜発で中央道を使うときの藤野さんの定宿らしい。遅く着いて早朝には撤収するので、ほんの数時間だが、快適な宿だった。

沢渡に車を置き、タクシーで上高地へ。バスターミナル出発は6時50分。朝の冷たい空気が心地いい。藤野さん、赤澤さんのザックは充実してみっちり重い。私は個人装備のみ。申し訳ないと思いつつも、ここで体力を温存しておかねばとの計算も働く。私がしっかり歩くことが今は大事だ。明神、徳沢、横尾へと順調に進む。1500m超とはいえ天気がいいと気温が上がる。湿気が少ないのに救われるが、涸沢までは長かった。小屋到着は13時40分。今日は二食付きで宿泊。バンザイ！

テラスに陣取り、明日登る北尾根を眺めながらビールで乾杯。最高です〜！

明朝は「3時起床、4時出発」となった。夕食で同席したグループの話を小耳にはさみ、確かめたらやはり北尾根を目指すという。はたして何グループが取り付くのか？私のせいで渋滞したらどうしよう？ここにきてまた不安が募る。ええい！いまさら考えても仕方ない。

朝食を弁当にしてもらったので夜のうちにザックに詰めて、あとはぐっすり寝て備えるだけである。おやすみなさい。

緊張のなか寝たのか寝られなかったのか定かでない、長い夜が明けつつある。予定通り4時出発。小屋のすぐ下、雪溪の末端からスタートだ。何年か前に新調したピッケルと前爪有りのアイゼンは新品のまま押し入れに眠ってた。やっと日の目をみられると喜んでいるだろう。ガチャガチャと支度が始まった。「靴底がはがれた！」。赤澤さんの悲痛な声が、、、ミッドソールの剥がれた。藤野さんがテーピングテープを、私が細引きを出し、縛って貼ったが、このままアイゼンをつけ、5、6の科尔まで雪溪を登りつめ、岩を攀じるのは難しいだろう。藤野さんは「今回は止めよう」と即断した。赤澤さんは、「二人で行ってくれ！」と言ってくれたが、それは私の未熟ゆえ出来ることではない。不謹慎と言われるのを覚悟で告白すると、正直私は ホットしたのだった。何年ぶりかに岩に触るのが本チャンなんて怖すぎる。荷物を背負って大丈夫だろうか、悩み続けたことが霧と消えていった。赤澤さんは 本当に申し訳なく思ってくれただろうが、根性なしの和田はあの時こんなことを考えていたのだった。藤野さん、赤澤さんごめんなさい。帰ったらちゃんとロープワークの本(本棚に何冊も並んでる)読んで勉強します。

少しの話し合いの後、藤野さんと私は北穂を往復し、赤澤さんが小屋で待っていてくれることになった。ヘッドランプを点けなくても足元が見えるようになった4時半、北穂を目指して再スタートした。4時40分、奥穂の頂が赤く染まった。モルゲンロートとドイツ語で言いたくなる特別な朝焼けだ。今日の好天が約束された気がして嬉しくなる。藤野さんの着実な一歩の後ろを付いていくうち、さっきまでいたカールの底がどんどん小さくなり、北尾根に肩を並べるようになる。富士山が頭を出した。そして様々な花が斜面を彩る。「きれい！」愛でる振りをしながら休んだりして。

6時50分山頂着。一番好きな山、穂高にまた登ってこられて幸せ。360度の展望を先客と3人で独占する。記念 写真に納まり、北穂小屋へ下りコーヒーを頼み、40分の大休止を楽しんだ。槍のご機嫌も美しく、「待ってるよ」と余裕のお姿。なかなかご縁に恵まれず失礼してるけど、今年こそ背中の方からお邪魔するかも？

7時半下山開始。「下りは慎重に」藤野さんの言葉通り、ちょっとしたつまづきが大事故になる。心して下る。9時20分涸沢小屋着。真夏の日差しが容赦なく照りつける。この時間に下ってこれてよかった。と思っていたら10数人ほどのグループが準備体操を始めた。ツアー登山のようだ。昨夜はヒュッテに宿泊していたらしい。余計なお世話だがなぜ今まで出発しなかったのだろうか？高山とはいえ昼間の日差しと気温の中、登るという作業は初心者ならなお辛いのではないだろうか？

さて私達も他人事ではない。登りこそないが、上高地までの長いながーい下りが待っている。あとひとふんばり、ふたふんばり。9時40分小屋を後にした。本沢橋、横尾、徳沢、若い時はなんてことなかった気がしていたのに、下りばかりで膝にくる。

藤野さんと赤澤さんも口数少なくなりひたすら歩く。最高の天気、快晴は有り難いんだけどやっぱり暑すぎる、、、って贅沢ですね。あっ、それから赤澤さんのもう片方の靴も段々と悲鳴を上げ始めたらしい。さぞ歩きにくかったとお察しする。そうして15時、 やっとバスターミナル到着。お疲れ様でした！本当にいろいろとお気遣いいただいたことに感謝。また機会があったら前穂北尾根リベンジお願いします。